

平成 30 年度 自己点検・評価書

平成 31 年 3 月

佐賀大学
保健管理センター

平成 30 年度の保健管理センターの業務に関して、その活動報告および自己評価を行う。

I 日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている。業務内容は下記の通りである。

- (1) 保健管理計画の企画・立案
- (2) 定期及び臨時の健康診断
- (3) 健康相談及び救急措置説明
- (4) 健康診断の事後措置, その他健康の保持増進に関する必要な指導
- (5) 学内の環境衛生及び伝染病予防に関する指導・援助
- (6) 保健管理充実向上のための調査研究
- (7) その他保健管理に関し, 必要な専門的業務

最近では、従来の健康診断を中心とする業務に加え新たな業務内容が増えてきている。学生支援の面では、発達障害等の障害を持ち合理的配慮を必要とする学生が増えてきており、学生支援室と協力して支援に当たっている。また、教職員の支援に関しても産業医としてストレスチェックによる高ストレス者の面談や復職支援、就労支援等のサポートを行うケースが増えてきている。

学生の健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断(新入生、在学生、留学生)、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策として、小児感染症(麻疹)抗体検査、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、小児感染症対策(新入生)、B型肝炎ワクチン接種、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、その他として健康診断証明書発行などの業務を行っている。

<本庄キャンパス>

1. 定期健康診断

3月下旬から4月に全学生を対象に定期健康診断を行った。新入生は、1,188名中1,188名(100%)全員が定期健康診断を受けた。在学学生では、2年生は1,182名中833名(70.5%)、3年生は1,197名中908名(75.9%)、4年生は1,435名中1,080名(75.3%)、大学院生は533名中405名(76.0%)、総計5,535名中4,414名(79.7%)であった。新入生以外の受診率はいずれも微減となり、全体の受診率は平成29年度の80.3%より0.6%低下し、79.7%であった。

2. 健康診断結果(各検査所見)

現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ(BMI 18未満)が452名、肥満(BMI 30以上)が116名、アレルギー疾患が127名、呼吸器疾患72名、循環器疾患54名の順であった。胸部レントゲン検査は要精密が10名であった。血圧は基準値を超える者には再検査を行い、異常値が続く者については病院紹介をした。検尿異常(尿蛋白、潜血)は再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は、前年度有所見者および既往・胸部症状が有る者251名に行い、有所見者は86名(29.1%)であった。

3. 留学生特別健康診断

留学生健診は、前学期と後学期(後学期入学者対象)に実施している。受診率は前学期の健診対象学生240名中受診者193名(80.4%)、後学期の対象学生74名中受診者67名(90.5%)、総計314名中260名(82.8%)だった。血液検査では、脂質異常症(58名)、肝機能障害(27名)、貧血(19名)、高尿酸血症(14名)等の異常が見られた。血液検査結果は個人に通知し、個別に生活指導・病院紹介等を行った。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康相談調査(メンタルスクリーニング)

心理面のスクリーニングを行うために、本年度は新入生、卒業予定学生(学部学生)、大学院生へ「学生生活質問票」(CMHQ: College Mental Health Questionnaire を改編)を用いて調査を実施した。総得点が30点以上、希死念慮の項目で3点(「かなりの間」)以上だった学生と悩みを抱えているのではないかと健診時に判断された学生を要面接者として呼び出しを行った。結果は以下の通りである。

新入生:回収率は1,188名中1,188名(100%)であり、昨年同様に高かった。要面接者は52名(4.3%)であった。それらの学生の中で、31名(59.6%)に面接を実施した。神経症、発達障害圏内の可能性、睡眠障害、気分障害などの状態が14名に認められた。

卒業予定学生(学部学生):回収率は 1,435 名中 1,080 名(75.3%)であった。要面接者は 71 名(6.6%)であった。それらの学生の中で、49 名(69.0%)に面接を実施した。発達障害圏内の可能性、神経症、気分障害、摂食障害群などの状態が 25 名に認められた。

大学院生:回収率は 534 名中 406 名(76.0%)であった。要面接者は 18 名(4.4%)であった。それらの学生の中で、16 名(88.9%)に面接を実施した。気分障害、神経症、発達障害圏内の可能性などの状態が 10 名に認められた。

編入生:回収率は 39 名中 35 名(89.7%)であった。要面接者は 6 名(17.1%)であった。5 名に面接を実施した。他群と比べて要面接者率が高かった。

発達障害圏内の可能性の学生については増加傾向が見られる。平成 26 年 10 月より学生支援室集中支援部門と連携し、修学のサポートを行っている。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、非常勤の学生カウンセラー 2 名(1 名は学生支援室と兼任)がカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は 287 名、延べ面談数は 1080 回であった。相談内容は、精神衛生が 182 名と多く、次いで学生生活 24 名、学業 23 名、対人関係 17 名の順だった。

4-3 障害学生(留学生を除く)

平成 30 年度の障害学生数は 151 名、何らかの修学支援を行っている学生は 77 名(診断書無し¹の発達障害疑い 13 名も含む)、障害手帳等取得者は 2 名であった。前年度と比較すると障害学生数は 37 名の増加だった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍している。

5. 感染症対策

本庄地区では、教育実習・介護等体験に参加する学生を対象に麻疹抗体検査を行っている。対象者数は 255 名で、受診者は 247 名であった。ワクチン接種対象者は 41 名であった。ワクチン接種対象者には保健管理センターで MR(麻疹・風疹)ワクチン接種を行った。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は前年とほぼ変わらず、2,754 通であった。保健管理センターにおける発行件数(自動発行で対応できないもの)は、497 通であった。発行の多いのは 6 月、3 月であった。

7. 保健管理センター利用状況(本庄地区)

保健管理センターの利用件数は 6,114 件(学生 4,756 件うち留学生 338 件、職員 1358 件)であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘル

スについての相談、健診の事後措置(血圧、検尿の再検査等)、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。医師 2 名、保健師 2 名の体制で対応している。

<鍋島キャンパス>

1. 定期健康診断

新入生 167 名中全員が定期健康診断を受けた。在學生は 739 名中 722 名(97.7%)、大学院生 185 名中 51 名(27.6%)が受診した。学部の受診率は 98%代であるが、大学院生の大学で実施する健康診断の受診率が低い状況は続いている。社会人大学院生も多いため、他機関受診の健康診断についても、健康診断の受診率に加え、来年度からは、受診率の向上に努める。

2. 健康診断結果

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、やせ(BMI18未満)が 14 名、気管支喘息などの呼吸器疾患が 5 名であった。新入生 1 名が I 型糖尿病食物の既往があり、入学前に附属病院受診し、対応ができるように関係者の情報共有を行った。医学部は血液検査を実施しているため肝機能異常を含む代謝・内分泌の血液検査異常が例年多いが、今年度は受診対象となる学生は 1 名のみであった。

3. 感染症対策

平成 28 年度より入学時に小児感染症 4 項目の血液検査結果を提出することとした。その結果でムンプス・麻疹・風疹・水痘などの佐賀大学医学部の基準に満たない学生に対し、入学後にワクチン接種を実施した。(平成 30 年度までの抗体基準 麻疹・風疹を 8.0 以上、水痘・ムンプスを 4.0 以上)。基準に満たない学生に対して、保健管理センターで追加接種を行った。小児感染症については、延べ 168 名がワクチン接種対象となった。

B 型肝炎ワクチンは、医学科 1 年 103 人、看護学科 61 人、計 164 名が接種を受け、151 名が陽転した。陽転しなかった学生 12 名については、12 月・1 月に追加接種を行い、4 月中旬までに確認検査を行い 1 名だけ抗体が陽転しなかった。

医学科 4 年生については、入学時に B 型肝炎ワクチン接種を行っていたため、実習前の確認検査として 9 月に検査を実施した。67 名が HBs 抗体陽性から陰性に変化していた。この対応として、10 月に B 型肝炎ワクチンの追加ワクチン接種を行った。

インフルエンザワクチン接種は、11月～12月に実習学生医学科5・看護学科3年、および国家試験を受ける学年医学科6年・看護学科4年、勸奨学年医学科2.4年生を中心とした大学院生を含む472名にワクチン接種を行った。

また、平成30年度は、麻しん・風疹の流行が報告されたことも影響し、平成31年度から、佐賀大学附属病院の感染症対策が変わることとなった。この変化に伴い、平成31年1月に医学科4年生で、麻しんの抗体価が8～16の間に、ワクチン接種を2回接種していない26名の学生に対して、1月に麻しん・風疹MRワクチンの追加接種を行った。

また、関連実習病院への学生のワクチン接種および抗体価についての情報提供の要請があったため、学生課・医学部長の決意をもって、情報提供を行うこととした。

4. 学生健康相談(メンタルヘルス支援)

新入生については、これまで同様に入学時健康診断のスクリーニング調査結果で、ポイントの高い学生36名に連絡し、24名に面談を実施した。平成30年度から、医学部新入生は、医学部での健康診断となったため、オリエンテーションに時に、CMHQ検査を実施し、入学の早い段階から面談を行った。ポイントの高い学生は、面談に来る率も高かったが、入学後2か月以上経過して面談を予定した学生は面談率が下がった。

H23年度から、医学科2年、看護学科3年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。また、平成29年度から、医学科4年は留年生と希望者のみ面談を行い、13名中5名に面談を行った。今年度の希望者は0名であったが、健康診断時に声をかけるなどし、状況確認を行っている。

過年度学生のメンタルヘルス対応が難しく、医学部精神神経科学学校医の協力を得対応している。留年を繰り返す学生には、精神面・学業面での支援は不可欠で、精神科医、副センター長、カウンセラーと学生課、チューター、および保護者との連携を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

4月～12月までに81通の健康診断証明書の自動発行利用があった。医学部の場合、免疫の記録(小児感染症・B型肝炎ワクチン接種)と国家試験免許申請に関する診断書発行するため1～3月に多く、保健管理センターでの3月までの診断書発行は299件であった。

6. 保健管理センター利用状況

平成 30 年度の 3 月末までの保健管理センターの利用件数は 7176 件(学生 3255 件・職員 3923 件)であった。

教職員の健康管理実施状況

<本庄地区>

1. 平成 30 年度労働安全衛生活動状況

本庄地区では、労働安全衛生管理活動として、職場環境の整備(作業環境管理・職場の巡視・5S活動・快適職場づくり)、マニュアル等の整備(安全衛生管理マニュアルの作成、安全データシートの整備)、健康保持増進対策(健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策・受動喫煙防止対策)、安全衛生教育(安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保)等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

2. 定期健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診者を合わせると、820 名が健診を受けていた。健診受診率は昨年度に続き 100%を達成した。定期健康診断の要精密者は 298 名(45.9%)であったが、その内、精密検査を受診した者は 73 名(24.5%)に留まっている。適切に医療機関を受診していただくよう、受診勧奨を行っていく必要がある。

3. メンタルヘルス対策

(1)健康相談調査(メンタルスクリーニング)状況

本庄地区では、全教職員を対象に 7 月に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用した「ストレスチェック検査」でのスクリーニングを行った。対象者 946 名中 887 名(回答率:93.8%)からの回答を得た。高ストレス者は 77 名(平成 29 年度 7.2%→30 年度 8.7%)、要配慮者は 165 名(29 年度 18.6%→30 年度 18.9%)であった。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応などを確認するため「疲労蓄積度チェック」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は 112 名の面接を実施し、4 名が継続面談となっている。

(2)カウンセリング状況

カウンセリング体制は、産業医 2 名、産業カウンセラー(非常勤)1 名、保健師 2 名である。相談の実数は 134 名、延べ数は 375 件であった。相談内容の内訳は、精神衛生、ハラスメント、人間関係、身体健康などであった。

4. 復職支援実施状況

病気(メンタルヘルスの不調者を含む)やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している(休職しようとする者を含む)教職員に、段階(0~4段階)ごとに産業医等の支援の下に実施している。それぞれの段階とは、第0段階(発症時の支援)、第1段階(療養開始・療養中の支援)、第2段階(職場復帰準備期の支援 例:仮出勤)、第3段階(職場復帰時の支援)、第4段階(職場復帰後の支援 例:慣らし出勤)である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカル3名、メンタル7名で、延べ面接回数は134回だった。復職支援プログラムを実施し、復職判定会議を9件行った。その結果、メンタル3名、フィジカル2名、計5名が復職した。

5. 労働災害報告

平成30年度の労災発生は計13件だった。4月と11月に3件ずつの発生があった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の安全衛生委員会で環境安全衛生管理室より報告されている。

6. 長時間労働に対する産業医面談

月の超過勤務時間が、100時間を超えた者、もしくは60時間以上が2ヵ月続いた者に対して産業医面談を行った。30年度の該当者は2名だった。健康状態の確認や管理監督者への勧告を行った。

<鍋島地区>

1. 平成30年度労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画の中の衛生管理活動を環境安全衛生管理担当の産業医・総務課・専任衛生管理者・衛生管理者と連携し活動を行っている。

2. 健康診断

職員健診は、大学附属病院ということもあり、定期健康診断の100%受診を労基署より指導をされている。今年度の定期健康診断受診率も100%であった。雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査により、採用後概ね1か月以内に実施するよう指導があり、異動が多い附属病院職員については対応が困難だったが、委託契約している近医での受診を勧め、1か月以内に計画・実施している。有機溶剤取扱者および電離放射線従事者の特定業務従事者健康診断の対象者1214名も100%受診となっている。精密検査につい

ては未提出者が昨年よりは減ったがまだまだ多く、職員健康診断を機に疾患が判明する場合も数件認め、文書、電話等で精密検査の勧奨を行っている。

3. 感染症対策

職員の感染症対策については、総務課・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。ムンプス・麻疹・風疹・水痘などの小児感染症については、雇入時に抗体検査を 101 名に実施し、抗体が基準に満たない職員述べ 97 名にワクチン接種を行った。平成 30 年は、麻疹・風疹の流行のため麻疹抗体価が 8~16 未満の職員 135 名に MR ワクチンの追加接種を行った。B 型肝炎対策として、雇入時又は健診時に 209 名に抗体検査を実施し、抗体陰性者 70 名にワクチン接種を行った。インフルエンザワクチン接種は、全職員を対象に、外部業者なども含め 1,745 名にワクチン接種を行った。

4. メンタルヘルス対策

新規採用者・異動及び昇任者を対象としスクリーニング面接を 135 名に実施した。継続が 7 名、病院紹介が 2 名だった。うち新人看護師は年 2 回の面接を実施。年度途中の退職が 2 名あった。

健康診断時に中災防ウエルネスチェックを行った。職員のメンタルヘルス対策として平成 27 年 12 月からストレスチェック制度が法律で義務化され、医学部ではこれまでの体制で継続実施し、1,644 名が回答した。要配慮者が 391 名(23.8%)、高ストレス者が 143 名(8.7%)だった。カウンセラー面接が 57 名、産業医の面接指導が 3 名実施された。カウンセリング継続が 7 名、病院紹介が 3 名だった。

個別カウンセリングは、上司からの勧めや指示で来所した事例や病休や異動といった事例で現場の上司等と連携したケースが多くある。病院紹介も 8 名あり職員の安全を確保するための危機介入的な働きを求められている。今後もより迅速な支援を実施する体制作りは必要である。

大学職員の場合、異動は避けられないものであり、適応障害となる事例も認める。異動時の職務に関する教育・指導・配慮は職員の業務だけでなくメンタルヘルスにも影響するため、管理職の果たす役割は大きい。そのため安全管理担当・安全衛生スタッフと協力し、管理職研修を実施するなど、よりよい職場環境となるよう取り組んでいる。

5. 過重労働対策

長時間労働者に対して面談を行った。対象者は、月の勤務時間が 100 時間を超えた者、もしくは 60 時間以上が 2 か月続いた者。月の勤務時間が標準時間から 100 時間を超える場

合、もしくは 45 時間を超える勤務が 3 か月以上続く場合を対象とし、5 名に面談を実施した。

6. 復職支援対策

平成 30 年度は復職支援として、10 名に面談を行った(フィジカル 1 名 メンタル 9 名)。延べ面談回数 54 回であった。復職判定会議は、4 回実施し、3 名が復職となった。

7. 禁煙対策

月 2 回の禁煙パトロールを実施し、鍋島地区の敷地内の巡視を行い、月に 1 回の安全衛生委員会で問題点の報告を行っている。

II 教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ大学及び大学院の講義を担当し、放送大学、九州国際看護大学や西九州大学での講義も依頼を受け行っている。教授、准教授は大学院生の教育指導も行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に実績を示す。

<本庄キャンパス>

1. 講義

佐藤(学内)

健康科学 A・前期

理工学部(機能物質化学)フレッシュマンセミナー

医学部・精神医学(コンサルテーション・リエゾン精神医学)

農学部「メンタルヘルス」

医学部医科学専攻・修士課程・精神心理学特論(physical health, mental health)

佐藤(学外)

放送大学(専門科目:心理と教育 | こころアレルギー)

日本赤十字九州国際看護大学(統合失調症と妄想性障害、気分感情障害、人格障害・薬物依存・てんかん、脳機能と薬物療法)

木道(学内)

健康科学 A・後期 95 名

トレーニング理論・実習(池上寿伸・木道圭子):教育学部 3 年生

2. 大学院生等指導(佐藤)

大学院医学系研究科博士課程医科学専攻2年生 竹岸智子

大学院医学系研究科修士課程医科学専攻1年生 坂井みのり

<鍋島キャンパス>

1. 講義等

尾崎岩太. 実習の安全管理:感染予防を中心に. 医学科 4 年 臨床入門. 2018.1.22.

尾崎岩太. 漢方入門:東洋医学の基礎知識. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2018.9.6.

尾崎岩太. 漢方入門:内科領域における漢方. 医学科 4 年 臨床入門 Unit10 2018.9.14.

尾崎岩太. 薬っていったい何だろう? 薬の使用と歴史. 教養講座「くすりの話」. 2018.10.11.

尾崎岩太. 生活習慣と健康. インターフェイス科目:食と健康 III 運動と栄養. 2018.10.31

尾崎岩太. 病態治療学 II(消化器・泌尿器科)1. 肝臓・胆道・膵臓の機能と構造. 2018.9.26. 4

限目. 西九州大学看護学部

尾崎岩太. 病態治療学 II(消化器・泌尿器科)2. 肝疾患の検査・診断と治療(ウイルス性肝炎・その他の肝炎)2018.9.26. 5 限目. 西九州大学看護学部

尾崎岩太. 病態治療学 II(消化器・泌尿器科)3. 肝疾患の検査・診断と治療(画像診断・肝硬変・肝癌)2018.10.10. 4 限目. 西九州大学看護学部

尾崎岩太. 病態治療学 II(消化器・泌尿器科)4. 胆嚢・胆道疾患の検査・診断と治 2018.10.10. 5 限目. 西九州大学看護学部

尾崎岩太. 病態治療学 II(消化器・泌尿器科)5. 膵疾患の検査・診断と治療 2018.10.24. 4 限目. 西九州大学看護学部

2. 大学院生等指導

佐賀大学医学部博士研究員 夏 京合

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 3 年(文部科学省国費留学生)

Mr. Mohamad Manirujjaman

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 1 年(文部科学省国費留学生)

Ms. Rasheda Perveen

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であり、研究が活発に行われているとは言えないものの研究報告、学会発表等は着実にいき、毎年一定以上の成果を出している。九州地区大学保健管理研究集会、全国大学保健管理研究集会などの大学の保健管理に関する学会には全員が出席している。またそれぞれの専門領域の学会にも積極的に参加して研鑽に努めるようにしている。科研費への応募も継続して行っている。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

<本庄キャンパス>

〔著書・総説〕

1. 佐藤 武:医療からの学びー佐賀新聞「診察室から」20年間の軌跡。佐賀新聞社、佐賀、pp.1-175, 2018.
2. 佐藤 武、中嶋 稔:こころアレルギーー佐賀新聞社、佐賀 pp.1-120 (印刷中)

〔研究・症例報告〕

1. Nakamura S, Sonezaki S, Hayashida Y, Sato T: The effect of pottery therapy on heart variability in college students with mental health problems. Journal of Mental Disorders and Treatment 3(2): 144-149, 2018.
2. 丸谷俊之, 安宅勝弘, 齋藤憲司, 高山潤也, 佐藤武, 杉田義郎, 苗村育郎:全国国立大学大学院学生の病死、事故死の状況についてー13年間の調査よりー. CAMPUS HEALTH 54(2):217-222, 2017.
3. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、苗村育郎、佐藤武:大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第38報(平成27年度分集計結果)より。ー死亡学生実態調査についての結果と考察ー CAMPUS HEALTH 55(2):180-184, 2018.
4. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、苗村育郎、佐藤武:大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第38報(平成27年度分集計結果)より。大学のメンタルヘルス 2:42-48, 2018.
5. 安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎、苗村 育郎:大学院における休学・退学・留年学生に関する調査ー平成27年度調査結果を中心にー。大学のメンタルヘルス 2:49-55, 2018.
6. 竹岸智子、佐藤 武:自閉症スペクトラム障害における血漿アミノ酸分析についてー予備的研究ー第48回九州地区大学保健管理研究協議会報告書(長崎大学) pp.49-51, 2018.

7. 丸谷 俊之、中川 克、柳元伸太郎、吉川弘明、富樫 整、鈴木真理、原田賢治、石見 拓、馬場久光、岩崎泰正、横山裕一、佐藤 武、守山敏樹、西尾彰泰、山本真由美：留学等で渡航する学生への健康管理に関する支援の状況についての全国調査。CAMPUS HEALTH（印刷中）

〔学会参加・報告〕

1. 佐藤 武：一般演題Ⅱ 座長 第48回九州地区大学保健管理研究協議会（長崎大学主催）、平成30年8月30日～31日、長崎
2. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎：大学院における休学・退学・留年生に関する調査 第15報（平成28年度集計結果）。第56回全国大学保健管理研究集会、平成30年10月3日～4日、東京
3. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、苗村育郎、佐藤 武：大学における休学・退学・留年学生に関する調査 第39報（平成28年度分の集計結果から）。第56回全国大学保健管理研究集会、平成30年10月3日～4日、東京
4. 佐藤 武：教育講演2 司会「阪上 優：多文化共生と主体価値変容～留学生の健康支援の立場から～」第40回全国大学メンタルヘルス学会総会、平成30年12月6日～7日、岡山
5. 布施泰子、梶谷康介、平井伸英、苗村育郎、佐藤 武：大学における休学・退学・留年学生に関する調査—平成28年度の調査結果より。第40回全国大学メンタルヘルス学会総会、平成30年12月6日～7日、岡山
6. 丸谷 俊之、安宅 勝弘、齋藤 憲司、高山 潤也、佐藤 武、杉田 義郎：大学院における休学・退学・留年生に関する調査—平成28年度調査結果を中心に— 第15報（平成28年度集計結果）第40回全国大学メンタルヘルス学会総会、平成30年12月6日～7日、岡山
7. 尾崎岩太、安田郁、古川早苗、武富弥栄子、小川康子、福島雅子、木道圭子、佐藤武、市場正良：職業性ストレス簡易調査から見た医学部職員の仕事の満足度に関与する因子の検討 第56回全国大学保健管理研究集会 平成30年10月4日 東京都品川区 きゅりあん（品川区立総合区民会館）

IV. 科学研究費補助金など（佐藤・木道）

1. 佐藤 武（分担研究者）：大学生の発達障害における自殺関連行動（代表者：渡辺慶一郎、東京大学学生相談ネットワーク本部（2017–2020年、4,290,000円）
2. 平成31年度 基盤研究(C)「長距離通勤によるストレスが過労死・突然死リスクにどのように関与するか」研究代表者：木道圭子、研究分担者：林田行雄（申請）

<鍋島キャンパス>

〔原著論文〕

1. Kuwashiro T, Iwane S, Xia J, Matsuhashi S, Eguchi Y, Anzai K, Fujimoto K, Mizuta T, Sakamoto N, Ikeda M, Kato N, Ozaki I. Regulation of interferon signaling and HCV-RNA replication by extracellular matrix. *Int J Mol Med* 2018; 42: 957-965.
2. Guo J, Ozaki I, Xia J, Kuwashiro T, Kojima M, Takahashi T, Ashida K, Anzai K, Matsuhashi S. PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating the p21 expression. *Frontiers in Oncology*, 2018 in press.

〔学会発表〕

1. 桑代卓也、秋山巧、西岡千佳、窪津祥仁、吉岡航、高橋宏和、岡田倫明、大枝敏、岩根紳治、尾崎岩太、安西慶三、江口有一郎. ソラフェニブ治療効果に肝線維化が及ぼす影響の検討 第 104 回日本消化器病学会総会 日本消化器病学会誌第 115 巻臨時増刊号 A388. 京王プラザホテル(東京都)2018.4.19-21.
2. 尾崎岩太, 野口光代, 佐藤英俊, 栗山一道. 気血水スコアを用いた医学部学生の冷えに関連する身体症状の検討 第 69 回日本東洋医学会学術総会 AO-007 日本東洋医学会雑誌 2018;69(Suppl):257. 大阪国際会議場(大阪市) 2018.6.8-10.
3. 夏京合, 尾崎岩太, Guo Jing, Md Manirujjaman, 田中賢一, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子. 肝癌細胞における Protein kinase C(PKC)による YAP の活性化調節. 第 54 回日本肝臓学会総会 O272. 肝臓 2018;59(Suppl 1):A445. 大阪国際会議場(大阪市)2018.6.14-15.
4. 尾崎岩太, 安田郁, 古川早苗, 武富弥栄子, 小川康子, 福島雅子, 木道圭子, 佐藤武, 市場正良. 職業性ストレス簡易調査から見た医学部職員の仕事の満足度に関する因子の検討. 第 56 回全国大学保健管理研究集会 C-1-1. プログラム・抄録集 p56. 品川きゅりあん(東京都)2018.10.3-4.
5. 尾崎岩太, 野口光代, 佐藤英俊, 栗山一道. 冷え症の季節的変動と気血水スコアから見た危険因子. 第 44 回日本東洋医学会九州支部学術総会 A3. 抄録集 p. SHIROYAMA HOTEL kagoshima.(鹿児島市)2018.11.18.

6. Manirjjaman M, Ozaki I, Murata Y, Guo J, Xia J, Perveen R, Tanaka K, Takahashi H, Anzai K, Matsuhashi S. Studies of PDCD4 protein degradation mechanisms by immunocytochemical approaches. 第 41 回分子生物学会年会 1P-0327 パシフィコ横浜(横浜市)2018.11.28-30.
7. 夏京合, 尾崎岩太, Guo J, Manirjjaman M, 田中賢一, 桑代卓也, 高橋宏和, 江口有一郎, 安西慶三, 松橋幸子. The role of PKCs in the BCAA suppression of YAP activity in hepatocellular carcinoma cells. 第 41 回分子生物学会年会 1P-0331 パシフィコ横浜(横浜市)2018.11.28-30.
8. Guo J, Ozaki I, Xia J, Kuwashiro T, Kojima M, Takahashi T, Ashida K, Anzai K, Matsuhashi S. PDCD4 knockdown induces senescence in hepatoma cells by up-regulating the p21 expression. Front. Oncol. 2019; 8:661. doi:10.3389/fonc.2018.00661
9. Xia J, Ozaki I, Matsuhashi S, Kuwashiro T, Takahashi H, Anzai K, Mizuta T. Mechanisms of PKC-mediated enhancement of HIF-1 α activity and its inhibition by vitamin K2 in hepatocellular carcinoma cells. Int J Mol Sci 2019; 20(5). pii: E1022. doi: 10.3390/ijms20051022.

IV 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも多くある。時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員会、関連学会等の委員となり活動に協力したほか、学会誌の査読員なども務めている。留学生の健康面の支援、留学する日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。佐藤は台湾の元培医事科技大学を訪問し、視察や講義を行うなど国際交流を行った。以下に 30 年度に行った講演等について示す。

<本庄キャンパス>

〔新聞執筆〕

佐藤 武:コラム「診察室から」佐賀新聞

1. 「本当の意味を再度学習する「ガバナンス」の強化」:平成 30 年 4 月 28 日号
2. 「もっとも大きいのは 35～55 歳 がんとストレスの関連」:平成 30 年 5 月 26 日号
3. 「癒される交流の場が必要 老後の過ごし方」:平成 30 年 6 月 30 日号
4. 「うつ病の運動・食事療法 薬だけに頼らないで」:平成 30 年 7 月 28 日号
5. 「自然や動物とふれあいを 脳の発達には遊びが重要」:平成 30 年 8 月 25 日号

6. 「公認心理師に望む 苦しみ語り合える文化を」:平成 30 年 9 月 29 日号
7. 「国際交流もっと盛んに 定期便で台湾が身近に」:平成 30 年 10 月 27 日号
8. 「訪問治療必要な時代に こころの問題への対応」:平成 30 年 11 月 24 日号
9. 「職場のメンタルヘルス 信頼大切なラインケア」:平成 30 年 12 月 29 日号
10. 「禁煙は難しいけれど 百害あって一利なし」:平成 31 年 1 月 26 日号
11. 「医者と出身大学:臨床能力と関係があるのか?」:平成 31 年 2 月 23 日号

〔新聞掲載〕

中村志織、佐藤 武:陶土こねるとリラックス効果:上峰の中村さん「陶芸療法」で医学博士号. 朝日新聞:平成 31 年 1 月 21 日

〔講演〕

1. 佐藤 武:農学部新入生「ネット社会と若者の行動～依存から自立へ～」. 佐賀大学農学部、佐賀大学、平成 30 年 4 月 19 日
2. 佐藤 武:メンタルヘルス. 佐賀県警察学校、平成 30 年 4 月 23 日
3. 佐藤 武:メンタルヘルス. 理工学部フレッシュマンセミナー. 佐賀大学、平成 30 年 6 月 14 日
4. 佐藤 武:被害者等への支援～VOISS が提供するサービス. 被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS、アバンセ、平成 30 年 6 月 13 日、佐賀
5. 佐藤 武:中高年のメンタルヘルス. いのちの電話、平成 30 年 7 月 11 日、佐賀
6. 佐藤 武:ネット社会と若者の行動～依存から自立へ～、放送大学佐賀学習センター・オープンキャンパス、アバンセ、平成 30 年 8 月 18 日、佐賀
7. 佐藤 武:中高年のメンタルヘルス. いのちの電話講習会、アバンセ、平成 30 年 10 月 4 日、佐賀
8. 佐藤 武:教職員集団で取り組む働きやすい職場づくりのメンタルヘルス、思斉中学校、平成 30 年 8 月 6 日、佐賀
9. 佐藤 武:教職員集団で取り組む働きやすい職場づくりのメンタルヘルス. 佐賀大学附属特別支援学校、平成 30 年 8 月 21 日、佐賀
10. 佐藤 武:なぜ内蔵脂肪は悪いのかー肥満対策ー. 佐賀県警「ライフサイクルセミナー40」、平成 30 年 10 月 10 日、佐賀.
11. 佐藤 武:ネット社会と若者の行動～依存から自立へ～. 平成 30 年 11 月 7 日、長崎大学メンタルヘルス講演会、長崎

12. 佐藤 武:うつ病について。平成30年度いのちの電話 講習会。平成 30 年 11 月 21 日
13. 佐藤 武:ストレスとの上手な付き合い方、佐賀県立牛津高校、平成 30 年 11 月 28 日、佐賀県

〔国際貢献(佐藤)〕

平成31年2月17日～2月22日 元培医事科技大学(台湾、新竹市)の大学生・大学院生のカウンセリングセンター、保健管理センターの視察を行った。大学が新設した老人デイケアセンターで老人の方々と一緒に1日を過ごし、食事をともにした。また、国際センター長の黄焼令先生の講義の聴講(2コマ)、実際に2コマの講義(生活習慣病とメンタルヘルス)を行った。新竹市の認知症対策を行っているスタッフ、衛生局長、富山のデイケアセンター部長とともに、日本の現状およびこれからの課題について紹介しディスカッションを行った。

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

佐藤:

国立大学保健管理施設協議会理事(メンタルヘルス委員会委員)、全国大学保健管理協会理事(国際連携委員会委員)、日本精神衛生学会理事、全国大学メンタルヘルス学会理事、九州精神神経学会評議員、佐賀県自殺対策協議会委員、佐賀県いじめ問題対策委員会委員、被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS 理事長(平成 30 年 11 月迄)、佐賀いのちの電話(平成 30 年 12 月～3 月活動中止)、Pacific Rim College of Psychiatrists (fellow)

木道:

全国大学保健管理協会九州地方部会幹事

〔査読委員〕

大学のメンタルヘルス(編集顧問・全国大学メンタルヘルス学会・学会誌)、INFORMATION An International Interdisciplinary Journal, Asian-Information-Science-Life, 「精神神経学雑誌」(日本精神神経学会・学会誌), 「日本ペインクリニック学会誌」、「九州神経精神医学」(九州神経精神学会・学会誌)、「CAMPUS HEALTH」(全国大学保健管理協会・学会誌)、「こころの健康」(日本精神衛生学会・学会誌)

<鍋島キャンパス>

〔講演〕

1. 尾崎岩太. 肝癌対策から見た佐賀県のウイルス性肝炎・肝癌の変遷. 平成 29 年度佐賀県肝癌対策医会 2018.1.26. マリトピア(佐賀市)

2. 尾崎岩太. あなたの肝臓を守る！肝臓を治すための最新治療. 鳥栖三養基市民公開講座 2018.1.27. サンメッセ鳥栖(鳥栖市)
3. 尾崎岩太. 佐賀県肝疾患の推移 肝炎治療助成制度とC型肝炎・肝癌の変化. 平成29年度佐賀県肝疾患対策委員会 2018.3.14. 佐賀県庁(佐賀市)
4. 尾崎岩太. 大学病院で働き始める前に. 平成30年度新人看護師オリエンテーション 2018.4.6. 佐賀大学医学部臨床小講堂
5. 尾崎岩太. 病気の変遷と時代の変化-臨床医学と研究-. 武雄高校ジョイントセミナー 2018.7.12. 武雄高校(武雄市)
6. 尾崎岩太. 保険診療の基礎:診療報酬制度の理解のために. 平成30年度保険診療講習会. 2018.8.26. 佐賀大学医学部臨床大講堂
7. 尾崎岩太. かぜ症状に対する漢方 明日から使える漢方セミナー in SAGA. 2018.9.8. アバンセ(佐賀市)
8. 尾崎岩太. パワハラ防止講座. 平成30年度看護部研修会. 2018.9.20. 佐賀大学医学部付属病院看護部
9. 尾崎岩太. 冬の漢方:呼吸器編. 佐賀漢方セミナー in SAGA. 2018.12.8. ガーデンテラス佐賀(佐賀市)
10. 尾崎岩太. 保険診療:個別指導対策講習会 2018.12.13. 佐賀大学医学部臨床大講堂

〔自治体の委員会等〕

尾崎:

佐賀県肝疾患対策委員会(委員長)、佐賀県肝炎治療助成費認定協議会委員(委員長)、佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会委員、佐賀県社会福祉審議会委員

Peer Review

International Journal of Molecular Medicine, Molecular Medicine Reports, Oncology Letters, Experimental Therapeutic Medicine, Cancer Medicine

V 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、30年度についても業務の遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものと

考える。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センターとして専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務に従事している。災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等(佐藤):

保健管理センター運営委員会(委員)、労働安全衛生委員会(委員、産業医)、医学部研究科委員会

委員等(木道):

保健管理センター運営委員会(委員長)、本庄地区労働安全衛生委員会(委員、産業医)、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会(オブザーバー)、教育委員会(オブザーバー)、教育室会議委員、施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会委員、新型インフルエンザ対策委員会委員、ハラスメント相談員、学生支援室・健康支援部門(部門長)、集中支援部門(協力教員)、ダイバーシティ推進室員、受動喫煙防止対策ワーキンググループ委員長

委員等(尾崎):

保健管理運営委員会(委員)、鍋島地区安全衛生委員会(委員、産業医)、医学部教育委員会(オブザーバー)、動物実験委員会、遺伝子組み換え実験安全委員会、佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会、佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会(委員長)、ハラスメント相談員

VI 改善すべき点

本庄キャンパスの学生の健康診断受診率は以前から十分でなく、80%前後で推移していた。平成 30 年度の本庄キャンパスの学生の健診受診率は前年より 0.6%減の 79.7%であった。受診率が 8 割を切る現状については健康管理、リスクマネジメント(感染症対策)の点から受診者を増やし受診率が改善するよう対策を講じなければならない。とくに受診率が低い学部・学年(経済・理工、2・3年生)をターゲットに方策を検討している。

鍋島キャンパスでは、大学院生の健康診断受診率が低い状況が続いている。平成 30 年度は 26.4% (前年比+4.6%) で依然低かった。社会人学生には外部での健康診断結果の提出を引き続き呼びかけ、健康状態の把握に努める。